

2011年(平成23年)

11月12日(土)

夕刊

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28

(郵便番号 980-8660)

電話(022)211

総合案内 1111

読者相談室 1447

夕刊編集部 1146



仙台サンプラザホールの復旧作業。利用者の避難時間を稼ぐため、天井が落下しても、それを受け止めるネットを新設した=4月15日

芸術文化癒やし提供

7月1日、震災で大きな被害を受け休館していた仙台サンプラザ(仙台市宮城野区)のホール利用が、再指定管理者としてホールの

開された。

□開けとなつた仙台三桜高校内合唱コンクール。

共立の岸浪行雄社長(57)は「久しぶりに歌声や笑い声を聞き、ホッとさせられ

ました」と、その日を振り返る。

◆ ◆ ◆

仙台市内の主要な文化施設は軒並み震災被害を受けた。東京エレクトロンホール宮城、仙台市民会館、イズミティ21。予定されていたコンサートや催しが、ことごとく中止や延期になつた。

サンプラザホールも天井が客席に落下し、それを支えていた鉄骨の継ぎ目も多

手を打つことが奏功しました。

本社も動いた。駐車場の電源車にテレビモニターを

つなぎ、情報を提供した。ここで初めて津波被害の大

きさを知った市民も多い。

「ことし創立40周年を迎えた。お世話になつた市民にお返ししようと誓つた直後の震災でした。サービス業に携わるものとして、少しでも手助けしたいという思

いでした」と杉山さんは言いました。

8月、町内会の夏祭りで音響を担当する依頼が来

た。「地域の方から初めて声を掛けていただいた。これが一番うれしかった」と岸浪さん。「私たちの仕事が普段の生活に必要だと、認めてもらえたと感じています」

サンプラザホールでは仙台市内の専門学校の卒業式が行われていた。帰宅できない生徒たちがいると分かり、敷地内のホテルに誘導

した。

津波が押し寄せた石巻市民センターには8人の社員がいた。避難して難を逃れたが、機材やトラックが水をかぶつた。

仙台市民会館には近くの住民が身を寄せた。指定避難所ではないのだが、同館に派遣されている社員の判断で一時的に部屋を開放し

復興を支援しようとして、6月には石巻市と仙台市で被災地応援ミニコンサートを主催した。仙台七夕まつりや東松島市の夏祭り、若林区の仮設住宅の祭りで

音楽やイベントが生み出され、震災に遭つても、市民は音楽やイベントが生み出す癒やしを求めていた。

「心の豊かさを生む芸術文化に触れる場を、いつも通りに提供するのが私たちの使命だと思っています」。

岸浪さんの言葉には、同じ被災者としての実感がこもつっていた。||土曜日掲載

東北共立

(仙台市太白区)

て再開にこぎ着けられた。

◆ ◆ ◆

東北共立の業務はホール運営だけではない。音響や照明など舞台運営面で文化事業を支える。クラシックやロックのコンサート、テレビ局や各種団体が開く催し、学会の全国大会…。

3月11日も、宮城県内各所で社員が仕事中だったた

う。

メモ 1971年設立。文化施設の管理業務や舞台・テレビ・各種イベントの企画、照明、音響、映像、美術のプランニングから制作運営までを手掛ける。資本金1500万円。従業員176人。仙台市太白区八本松2の10の11。022(246)2591。



再生へ

石巻市で開いた被災地応援ミニコンサート。企業の駐車場で著名なバイオリニストとピアニストが演奏し、市民80人余りが耳を傾けた=6月19日